

第35回 おもちゃ病院「チャチャチャ」



▲部品の接着や断線のハンダ付け、さび取りなど、細かく作業されていました



市民の方から持ち込まれた、壊れたおもちゃを修理するボランティアグループ「おもちゃ病院『チャチャチャ』」の皆さんにお話を伺いました。

経験生かし、チーム力で修理

市民センター主催の「おもちゃドクター養成講座」の受講生を中心に、平成19年に結成されたおもちゃ病院「チャチャチャ」。市民センター等で定期的に開院し、11人でおもちゃの修理を無償で行っています。「最初の3カ月間はお客さんが1人も来なかったたので、幼稚園や児童館などにチラシを張ってもらいました」と話すのは代表の荒木泰明さん。今では年間400を超える依頼があり、ぬいぐるみや子供用電動バイク、木のおもちゃなど、幅広く修理しています。この日、最初に訪れたの

は電車のおもちゃなどを持参したご家族。お子さんが心配そうに見守る中、皆さんはおもちゃを「診察」し、早速「治療」に取りかかります。鎌田博明さんは「どんな修理にも対応できるように、工具や部品は多めに持ってきています」と教えてくれます。取扱説明書はなく、頼りになるのは皆さんが現役時代に培った技術とこの活動で得た経験。「私が木製のおもちゃの修理を得意とするように、皆、それぞれ得意分野があります。お互いにアイデアを出して教え合うなど、非常に良い環境の中で活動しています」と加藤宏さん。難しい修理内容は、細かく「カルテ」にまとめ、次の修理に役立てているそうです。長きにわたる活動の秘訣はこうした工夫やチームワークにあるのですね。

物を大切にしている心を育む

活動の原動力は、お客さんの喜ぶ気持ちだと口をそろえる皆さん。「泣きながら壊れたおもちゃを持ってきたお子さんが、直るとにっこり笑うんです。それを見るのが楽しくて」と荒木さん。加藤さんも「大人から依頼を受けることもあって、震災で壊れた地球儀を修理したときは、涙を流して喜んでくれました」と続けます。その方にとって、とても思い出深い品だったのですね。

この日、持ち込まれた電子ピアノはお母さんが小学生の時に使っていたもので、今はお子さんが使っていないらしいとのこと。代々、おもちゃが大切に

引き継がれている様子を目の当たりにして私も胸が温かくなりました。柏和郎さんは「今は使い終わったおもちゃを捨ててしまう方もいますが、大切に扱いながら受け継がれていくことで、子どもたちにもおもちゃへの愛着が芽生えます。修理を通して物を大切にすることを感ずってもらうこともこの活動の役割です」と力強く語ってくれました。

子どもたちの笑顔とともに

誰しも、幼い頃大切にしておもちゃがあり、その一つ一つに思い出が刻まれています。その思いを受けとめ、修理される皆さんの姿勢は、繰り返し使うことの大切さや思いやりの心も育んでいるのだと感じました。「治療」が終わったおもちゃを手渡したときの笑顔が何よりの報酬なのだそう。皆さんにとっても、生きがいや世代を超えた交流の機会になっているのだと思いました。ぜひ、次の世代にも経験を伝えていただくとともに、これからも子どもたちの笑顔の花を咲かせ続けてくださることを期待しています。

団体紹介

おもちゃ病院「チャチャチャ」
<http://omtyatyatya.web.fc2.com/>



荒木泰明さん



鎌田博明さん



柏和郎さん



加藤宏さん